

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079700201		
法人名	医療法人 上野病院		
事業所名	グループホームあがの		
所在地	福岡県田川郡福智町上野2678番地1		
自己評価作成日	令和3年5月31日 南棟	評価結果確定日	令和3年7月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和3年6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームについて、赤池は薬王寺のどかな自然の中にある環境が魅力で、入居者・御家族様から“良い所だね。”というお声を戴く事が多いです。母体が上野病院という事も強みとしてあります。距離も車で4分程度と何かあればすぐに診てもらえる距離であるため、ご家族様も安心されていると思われま。近い将来には、上野病院のデイケアとの連携も計る計画で、さらに入居者様・御家族様のご期待に応えられると見ております。職員も正職員が定着してきており、そのため情報共有の質が高まり、これが互いの信頼感の向上につながっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念に、家族の一員として愛情を持ち、本人のできること、できる可能性があることを支援すると謳い、職員の定着で円滑なチームケアが実践され、日々具現化に努めている。嚥下状況をアセスメントしながら、ぎりぎりまでホームでの生活を支援した方が、先日入院先の母体医療法人で逝去された。施設長でもある医師から、病状について丁寧な説明を受けている。昨今の状況から運営推進会議開催は見送られ、分かりやすいと好評のパワーポイント様式の書面で、ドア越しの面会や寛ぎの場となっている玄関を入居者が率先して清掃を行っている様子や、決定したワクチン接種日時などを報告し、メンバーからは労いの言葉や入居者の元気が一番との意見などがあり、議事録を整備している。コロナ禍の中、地域の方々から手作りのマスクや野菜の差し入れがあり、感染予防対策について地域の声を聞きながら、今後も地域住民の一員として地域との交流が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名

南棟／グループホームあがの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、実践につなげるよう心掛けている。	令和元年9月、全職員で制定した運営理念を玄関や各ユニットに掲示し、日々理念の具現化に努めている。職員は、家族の一員として愛情を持ち、本人のできること、できる可能性があることを支援していると話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の老人会や小学校などとの交流に努めていたが、現在はコロナのため出来ていない。	広報紙の配付や、馴染みの方々から手作りのマスクや野菜の差し入れがあった。理念の地域住民の一員として役割を果たすべく、今後も交流を予定しているが、医師である施設長は、感染予防対策は地域の声を聞くことが重要と話されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状出来ていない。推進会議で地域の委員会の方に理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナで会議を開催できないため、紙面での報告を行っている。以前は会議の中で意見の交換等行っていた。	5月も会議開催は見送られ、入居者の暮らしぶりやワクチン接種日、感染対策等を分かりやすいと好評のパワーポイント様式の書面で報告している。メンバーからは、労いの言葉や入居者の元気が一番との意見、委員就任の挨拶などがあり、議事録を整備している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では当該担当者に毎回参加をして戴いてもらい、意見を頂戴している。加えて、空床が出来たときには連絡をして、同担当者からの照会で入居が決定した事もあった。その他新型コロナワクチンの対応で担当者から好評価を戴けた。	担当者から入居の受け入れ相談があり、入居に至った方もある。日頃から担当者と密に情報を交換し、入居者のワクチン接種の意向確認が早く、母体医療法人で入居者や職員が同日に受けることになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を設け、年2回の話し合いに取り組んでいる。	「あと5分待ってください」や「今日は泊まることになっています」など適正な言葉かけを全職員に周知している。外国籍の職員も就労しているため、日本語だけでなく英語で表記した拘束に関するミニテストを実施している。家族の了解を得て、ペット柵やセンサーを使用している入居者もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束委員会を設け、年2回の話し合いに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットは整備しているが、コロナ禍で研修会等の参加や実施はできていない。利用料などの支払いが滞りがちな入居者もあり、成年後見制度の活用について検討している。	今後も多様な家族状況が予測されることから、権利擁護の要である地域包括支援センターとの情報交換や連携を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には説明を行い、理解を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等があれば直接話をしたり、家族はスタッフなどに意見を伝えている。	毎月発行している通信は好評で、家族から「普段の姿を見れるのが嬉しい」との感想をいただいている。玄関ドア越しの面会には、「仕方がない」との率直な意見がある。	様々なICTの活用で、家族のタイムリーな意見の表出や活用を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に対しての説明を行うことはあるが、職員より意見を聞いたことはない。	全職員で現理念を制定したり、介護職員処遇改善や特別加算は、全職員に周知申請している。朝は2ユニット合同での申し送りや申し送りノートの活用で情報を共有し、職員の提案はまず実践されるなど、意見を出しやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	待遇面に於いては、定期昇給のみならず、職員の自己評価を基にした査定制度を設けた。職能手当という形で各職員の能力に応じた形式で支給する事としたため、ここは改善した。 メンタルケア面に於いては、具体的な行動(面談等)は必要に応じてでしか行っていないため、定期的な職員の状況把握など、まだ課題が残る。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては特に年齢や性別の制限はしていない。定年制も設けていない。	正職員が定着し、職員を採用の予定のため、7月からは派遣の活用は無く、外国籍の職員を含む19歳～70代までの男女の職員が就労している。個々の自己評価に応じて職能手当が支給され、日頃の業務を振り返る機会にもなっている。就労1年目の60代の職員はホーム見学などの折の事務長の対応に感服し入職したが、研修は業務内で参加でき、職員の仲が良く円滑にチームケアができるので、10年は働きたいと笑顔で話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時など気が付いた時には話し合いをするよう努めている。	入居者への不適切な言葉遣いやケアはその都度注意を喚起しているが、指導に苦慮する場合もあると管理者は話している。職員は、個々の悩みや身体の不調等は管理者や事務長などに相談しやすく、職員の人権が守られていると話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修の参加は、声掛けを行い、希望者は参加出来るよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	筑豊地区の「グループホーム協議会」を通じて諸処の意見交換を行った。現在は新型コロナウイルス蔓延のため活動は停止しているが、次回から当ホームが会長職を務める事となり、リーダーシップの発揮が期待されている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ている。本人や家族から聞き取りを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ている。本人や家族から聞き取りを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階では難しいが、様子を見ながら必要であれば提案することはある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて協力を求めるなど、家族との関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけたり、玄関先の窓越しでの面会など現状で出来る限りのことはおこなっている。施設内に馴染みの人がいる方も居られるので、ユニットを行き来して交流されている。	現在、通信等通じて、家族には時間や人数、場所を制限した面会をお願いしている。年賀状や暑中見舞いは恒例となり、手紙のやり取りを支援している入居者もある。馴染みの入居者同士もあり、自由にユニット間を行き来している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	独りにならないように、スタッフや利用者同士で手を繋いで移動したり、出来る方は皆さんと一緒に家事をおこなったりして支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで契約が終了する方が居られるが、現状(コロナ感染)にて面会が出来ないため出来ない。相手から相談がある場合は出来る範囲で対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ている。現状の体調や機嫌を考えながら本人に寄り添いながらおこなっている。	アセスメントシートを整備し、気づきは印字の色を変えて追記している。自ら「何かさせてくれ」と意向を伝える入居者もあるが、意向を表出できない入居者は寄り添いながら、どんな時に笑顔になるのかや、便秘の時に不穏になるなどの把握した情報を共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りをおこないながら、スタッフ同士で共有出来ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ている。本人と関わり合いながら見極め、気づきがあればスタッフ同士で共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、担当スタッフなどと相談しながら作成している。	担当者会議で、モニタリング結果や入居者や家族の意向、職員の気づき等を話し合い、計画を見直している。夜間再三のコールで「娘を呼んでくれ」やトイレでの排泄を希望する入居者や、童謡などを切れ目なく歌う入居者に、少しでもこやかに過ごしてもらえるケアを模索している。	日々実践されている状況に応じたケアを計画に落とし込み、モニタリングを容易にするためにも、さらに具体的な短期目標やケア内容の記載を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ている。全員で取り組んでいる。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の症状に合わせて、食事の形態や食べやすい工夫をするなど出来る範囲でおこなっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状(コロナ感染)はほとんど出来ていない。以前は、小学校との交流や敬老会の参加などをおこなっていた。コロナ終息後は再開していきたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関の受診をおこなっている。現在、コロナ感染のため本人同行しての受診は、血液検査などの必要最低限のみ行っているが、あとは代理受診をおこなっている。	母体医療法人がかかりつけ医でない入居者にも管理者が受診に同行しているが、受診先で待っている家族もあり、適切な受診を支援している。調査日は訪問看護事業者のリハビリ担当者の来訪があるなど、個々の状態に応じて支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が訪問され、健康管理をおこなっている。その際に報告や相談をして適切な指示をいただいている。急変時には、電話にて連絡を行い訪問や指示にて対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている。医療機関と連絡をとりながら、お互いの情報交換をおこない、入院中の様子や退院の時期などの話し合いをおこない、関係を深めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来ている。契約時から本人や家族には話をおこなっている。自分達なりに時期を見極め、時期が来れば家族等と相談し対応している。	重度化した場合や終末期の指針に沿って、主治医が病状を説明し治療が必要なことを納得していただき、軽快すればホームに戻れることを説明している。今年5月、1名の方が入院先の母体医療機関で逝去されたが、嚥下状況をアセスメントしながら経口摂取ができるぎりぎりまでホームでの生活を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ていない。今後はオンラインでの勉強会などを検討している。コロナ終息後、研修や勉強会などを行うよう考えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は十分には築けていないが、災害時には連絡が出来るような体制は出来ている。避難訓練は年2回以上行っており、台風や停電時には非常食を用意したり、浴槽に水を溜めるなどの対策はおこなっている。	昨年10月の訓練では、消防署から台本なしのぶっつけ本番の訓練をとの指導があり、12月の夜間想定訓練は、避難に時間がかかったことが課題となり、改善策を話し合っている。訓練状況は通信で家族にも報告している。加熱用のご飯や飲料水などを備蓄している。	昨今の自然災害の状況から、入居者に関する持ち出し書面の検討をお願いします。また、災害時には地域の協力が必須なため、福祉施設の申請の検討も期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けて対応している。気が付いた時には、スタッフ間で言い合えるような関係作りを目指している。	○〇さんと丁寧な声かけを日々実践している。中でも2名の外国籍の職員の声掛けは丁寧と好評である。特に排泄介助時は、言葉遣いに留意しているが、職員の自己評価表でも、接遇に力を入れていると管理者は話している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日に欲しい物を聞いたり、着替えの選択など自己決定できることはしていただいている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ている。利用者は本人の好きなように自由に過ごしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己にて着替えが出来る方は、自分の着たい服を着られている。出来ない方は、支援している。乱れがあればその都度整えるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは、出来る方には手伝っていただいている。本人のやりがいを感じられる。食事形態も刻み食やトロミを使用するなど個人に合わせて提供している。好き嫌いにも対応している。	献立や食材の搬入は業者委託であるが、嫌いな魚は別の魚になどの工夫で、3食とも完食する入居者が多い。誕生日や行事食は入居者の希望に応じている。通信にはクリスマス会のランチが紹介され、ノンアルコールビールを嗜むスナップが掲載されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている。摂取量や水分量は表を作成し管理している。食事が摂れない時は、栄養補助食品など状況に応じて支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはおこなっている。電動歯ブラシなども使用したり、自己にて出来る方は声掛けや見守りをおこなっている。また週1回、訪問歯科の対応にて口腔内のケアもいただいている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を心掛けている。声掛けを行いながら、排泄のタイミングや、時間などの把握に努めている。	排泄が自立している入居者もあるが、其々の状況に応じた声かけやタイミングを見計らった声かけや誘導、トイレ内の介助で、トイレでの排泄を支援している。夜間は尿取りパッドの位置をずらすなどの工夫で、安眠を妨げずに心地よく過ごせるように配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう水分量に気を付けている。便が出にくい場合は、マッサージやウォシュレットを使用したり薬などで対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の順番など出来る限り希望を聞いている。入浴の時間は、利用者とスタッフがゆっくりと話をすることが出来たり、入浴剤で温泉気分になったりと楽しみになっている。入浴を拒否される場合は、無理強いせず、清拭を行うなどして対応している。	週3回の入浴を支援している。1番風呂や同性介助の希望に応じ、ゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。元来入浴が嫌いな入居者もあり、無理強いせず、週1回程度の入浴を柔軟に支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況に合わせて就寝している。眠れない時は、会話をしたりお菓子を提供したりして過ごしていただいている。気持ち良く眠れるように居室の温度調節にも気を付けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用はすべて理解していないが、薬の大切さは職員全員が理解している。薬の変更があった時など、症状の変化を見逃さないよう注意して観察している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな方は洗濯や食器洗いなどを一緒にして下さる。また食べることが楽しみな方は、好みのお菓子を提供するなどして、本人の喜ぶ顔が見れる場面がよくある。天気の良い時は、園庭の散歩などで気分転換などもおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への外出は現状は出来ていない(コロナ感染)。スタッフと一緒に園庭を散歩したり、玄関先に集まって日光浴をするなどおこなっている。	コロナ禍の中、玄関の車寄せ傍で桜の花見をしたり、広い園庭の散歩などを楽しんでいる。コロナウイルス感染が収束した折には、家族との外出を支援したり、花見や外出に出かけたいと管理者は話している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を使用する場面がない。また、お金を理解出来ない方が多いため、事務所で管理をおこなっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持され家族等と電話をしている方や、年賀状や暑中見舞いなど季節の手紙と一緒に作成し、家族に郵送している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りなどを食堂や玄関に掲示して、季節感を取り入れている。トイレなどは不快な臭いがしないよう、誤飲などの危険が無いように工夫して芳香剤などを使用している。	感染予防に配慮し、玄関のみを視認した。車寄せのある広く明るい玄関は、ドア越しで家族との面会や日向ぼっこをするなど寛ぎの場となり、入居者も一緒に玄関を清掃や消毒をしている。玄関正面に食堂や居間、広い廊下の左右に居室があり、広い共有空間を使ったクリスマス会の様子が通信で報告されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂は人が集まり易いように椅子やソファを置き、自由に過ごせる場所となっている。テレビを観たり、会話を楽しんだり、塗り絵をされたりと毎日好きなように過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの家具を置いたり、ラジオを聴いたり、塗り絵をしたりと自由に使っている。	感染予防に配慮し、居室の視認はせず、管理者等からの聞き取りとした。転倒を予防するために、床にジョイントカーペットを使用している居室もある。職員と自室に掃除機をかける入居者もあり、担当職員が衣替えや整理整頓に関わり、居心地良い居室作りを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し歩行時の補助に使用したり、玄関前に椅子やソファを置き、いつでも座っていただけるようにしている。場所が分かるように張り紙をしたり、目印になるような物を飾ったりと工夫している。		